



石原和丸さん



ウーマンフィールド・ザ・クラブ・バンド

女子畑のエンターテイナー

音楽でみんなが楽しく

ロックから演歌、果てはクラシックまで、音楽なら洋邦問わず何でもござれ。お客さんと一緒に自分も楽しんじゃう石原和丸さん(47歳、女子畑)は、知る人ぞ知る安浦のエンターテイナー。

皆さん、ウーマンフィールド・ザ・クラブ・バンドって聞いたことないですか?そう、安浦夏祭りや、ええとこ祭りなど、様々なイベントで演奏しているあのグループです。石原さんはヴォーカル(歌)とギターを担当。トークとパフォーマンスで会場を盛り上げてくれます。

彼が音楽にのめり込んだのは小学校の時、ビートルズの曲を聴いてから。友達とギターを始め、中学・高校ではバンドを組んで文化祭などで演奏していました。卒業後は、すっぱり音楽から足を洗っていました。

転機は野路東小のPTA会長をしていた時、副会長と長女の担任とで即席のバンドを組み、女子畑の秋祭りに出演したこと。ステージの興奮が石原さんの眠っていた情熱に再点火!その後、新たなメンバーを加え、現在に至ります。更に活動の場を広げる石原さんは、この他にも「しょうじにメアリー」の芸名でソロ活動を行ったり、安浦ミュージカルにも第1回から欠かさず出演中。

「僕は根っからの目立ちたがり屋なので、色んな行事に出没してますよ。中でも安浦ミュージカルは、みんなで一緒に盛り上げられる音楽劇なので、未経験の方も是非一緒に。」ますますエネルギッシュな石原さん。これからも安浦の町を音楽で盛り上げてください。



安浦ミュージカルの出演者と



大本紀子さん

安浦から日本一!

「レシピの女王」誕生!!

日本テレビ系お昼の情報番組「ヒルナンデス!」の人気コーナー「日本一家庭料理がうまい女性決定戦」で、安浦町在住の大本紀子さん(40歳)がみごと優勝!第3代『レシピの女王』に輝きました。

この番組は、ただの料理王決定戦とは違い、普通の主婦が普段家庭で作っている料理を披露し、そのアイデアや、味、見た目、手軽さ等を競い合います。



優勝を決めた料理「くるくるトンカツ」

驚きなのは、彼女が披露してきた料理の全てが、高級食材ではなく、安浦町で買うことのできる材料を使った、本当に普通の家庭料理だということです。

友人に勧められ出場しましたが、最初は気が進まなかったそうです。そして、まさか自分が優勝するなんて…と、優勝が決まった瞬間も、信じられなかった様子。これからレシピ本出版もあり忙しくなるようですが、「毎週火曜日には晴海橋近くのBROTOでパンを焼いています」ということで、普段の仕事も大切にしている大本さんなのでした。

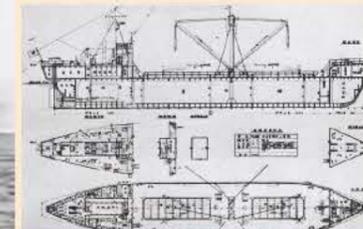


審査員の有名シェフに祝福される「新女王」

安浦の海を守るコンクリート船



太平洋戦争末期まで活躍していたコンクリート船「武智丸」



武智丸の設計図

武智丸

安浦で「武智丸」を知らない人は殆どいないと思います

が、存在は知っていても、昔からあるので特に興味を持ったことはないという方も結構いるのでは?

三津口湾に浮かぶ防波堤をよく見ると、「あれ?船が2隻並んでるみたい。」いやいや、まさにその通り。それがコンクリート船「武智丸」です。1隻が全長645メートル!船の形を模している訳ではないですよ。本当に、この鉄筋コンクリートの塊が、軍用船として、第二次世界大戦の時に航行していました。

実は、戦況悪化による資材不足から、苦肉の策として生まれたのが、この船なんです。兵庫県高砂市の武智造船所で4隻造られ、瀬戸内海では主に軍事物資を運搬していました。

終戦後、安浦町の漁業者らが呉や大阪に係留されていたこの船を防波堤にと、国に払い下げを要請し、漁港に設置されました。

戦時中は、大活躍とはいきませんでした。今や安浦になくってはならない存在として、その頑丈な船体が漁港や沿岸部を60年以上、力強く見守っています。

そんな安浦では当たり前の風景が、なぜか最近、注目度アップ!! その希少な歴史と、コンクリート船という意外性から、テレビ・新聞の取材、博物館の調査が県の内外から訪れ、我が安浦町まちづくり協議会のメンバーも協力しています。県外から取材と聞くと、「へー」って改めて興味が湧くでしょう?

では、次号で、もう少し詳しいお話しをご紹介しますね。



干潮時の武智丸



満潮時の武智丸



漁港入口から見た武智丸

おでかけ情報

11月

安浦ええとこ祭り	11月16日(土) 10:00~、11月17日(日) 9:30~	安浦中学校グラウンド、武道館
安浦青少年ふれあいコンサート	11月16日(土) 17:00~	入場無料 安浦公民館きらめきホール
月の西行祭	11月17日(日) 13:00~	グリーンピアせとうち
安登楽市「野菜市・軽飲食と遊びの広場」	11月24日(日) 9:00~14:00	安登公園
いなし秋穫祭	11月24日(日) 9:00~	いなしふれあい広場

12月

安登地区健康ウォーキング	12月1日(日) 9:00~	壇谷老人集会所集合
人権啓発映画鑑賞会「フラガール」	12月7日(土) 13:00~15:00	入場無料 安浦公民館きらめきホール
東儀秀樹コンサート	12月8日(日) 15:00~	全席指定 前売券3,500円 当日券4,000円 安浦公民館きらめきホール
いなし安浦青空市	12月21日(土) 8:30~	いなしふれあい広場
くれまちかどコンサート in 安浦	12月21日(土) 14:00~	入場無料 安浦公民館きらめきホール

1月

成人の集い	1月13日(月・祝) 10:00~	安浦公民館きらめきホール
いなし安浦青空市	1月18日(土) 8:30~	いなしふれあい広場
きらめき音楽館	1月18日(土) 11:00~	入場無料 安浦公民館きらめきホール
くれまちかど落語会 in 安浦	1月25日(土) 14:00~	入場無料 安浦公民館きらめきホール

2月

きらめき音楽館	2月8日(土) 11:00~	入場無料 安浦公民館きらめきホール
いなし安浦青空市	2月15日(土) 8:30~	いなしふれあい広場

今も地域に息づく伝統



中切地区 女子畑地区 水尻地区 横町商店街 (内海地区)



奥条地区 跡条地区

盆踊り

今年の猛暑は例年になく厳しいものですが、ここ安浦では暑さに負けることなく、夏の風物詩とも言うべき、伝統文化が今でも脈付いています。各地域では、いろいろな盆踊り大会が、厳かに、そして賑やかに催されました。



おばあちゃんも元気いっぱい

10月27日(日)、晴天のなか、恒例の運動会が開催されました。大人も参加した野路北小学校の運動会が、廃校後も地域行事として続いています。最高齢の88歳の方も現役選手で参加。縄ないリレーやパン食い競争など種目が次々と繰り広げられ、地域の絆と笑顔が絶えない1日でした。

田中敏弘自治会長は、「盆踊り・神明祭と同じ地域の大切なイベント。伝統を守っていきたいですね。」と、語っていました。

地区住民が躍動

赤向坂地区運動会



伝統の縄ないリレー



玉入れ競争

安浦 “なにこれ” 風景



落ち武者狩り

かかし 案山子

稲穂が実った頃に安登西で見かけた案山子。シンプルな作りだけど、平家の落ち武者を連想させる、ある意味迫力満点な風景!スズメより人が恐れて近づかないかも?

ジョバサンの季節まるかじり



青じそドレッシング作成中



ピオーネのジャム作り

地域のみなさんと一緒に、季節を感じる美味しいものを作って食べよう!

「ジョバサンの季節まるかじり」は、障がいをもつ人たちが働く事業所「ジョバニ」が、今年度新たに始めた取り組みです。2ヶ月に1回くらいのペースで、これまで八朔ビールや青じそドレッシング、ピオーネジャムなどの教室を開き、毎回10名くらいの地域のみなさんとジョバニメンバーで、ワイワイ楽しくやっています。美味しいお土産も盛りだくさん、大好評です。

次回は12月13日(金)13時より、柚子味噌作りを予定しています。興味のある方はお電話ください。ホームページ(<http://www.kurend.com/>)も是非チェックしてくださいね!

地域ネットくれんど ☎ 84-3731



伝説と昔話 第7話 安浦の民話シリーズ

安浦町は古い歴史があり、数々の民話や伝説が生まれてきました。子から孫へと後世に残る素晴らしい贈り物。古くから語り継がれてきたお話をシリーズで紹介しします。

かなざこ 勤農坂の竜神池



中畑の市原谷を野呂川に沿って川上に登ると勤農坂という広い丘で、その丘を越えると呉市広町の石内という所に出ることができます。この勤農坂は昔、源氏に滅ぼされた平氏の侍たちが、ここに落ち延びて暮らしていたという言い伝えもありますが、江戸時代の終わり頃、このあたりの山を切り開いて、田や畑にするためにたくさんの人たちが住んでいました。そのため、ここに住む人たちや土地を取り締まる代官も家来を連れてやってきたので、その人たちのすんでいた所を「侍屋敷」と呼んでいました。



勤農坂の開拓跡

侍屋敷の近くには竜神池といわれる池がありましたが、水のたまりがよくないためか、いつも池の底にわず

かな水が溜まるだけでした。ある時、広の新助という人の妻のハツが長い間、胸の病気で寝たきりになっているので、新助は野呂山に登って体に良いとされる木の葉や薬草を採ってきて、それを煎じてハツに飲ませていました。ところがある夜、夢の中で「竜神池に髪の毛六本、にぎりめし八個、線香十一本、水五升をお供えしなさい。」と教えられてあくる朝、竜神池に行きついでと、ハツの病気が良くなりました。



今も古道が残る

また、お乳の出ない女の人が、塩一斗、線香八本、砂五升、水五升をお供えして拝んだところ、不思議とお乳が出るようになったといわれています。

しかし、今では勤農坂には一軒の家もなく、この地を越えて広の方へ行く人もいなくなってしまったので、道もなくなってしまい、昔ここに住んでいた人たちの屋敷や畑の石垣が今もひっそりと残っています。



勤農坂の馬離場(ぼりば)池

※民話では勤農坂「かなざこ」ですが、「かんのうさか」とも言います。

写真でみる今と昔

安浦アーカイブ

時代とともに様変わりする景色や人々の暮らし。懐かしい風景を一緒に見てください。

安登西三丁目「奥条」



昭和45年の奥条から向野原を望む。安登小学校の旧校舎が見え、田園が広がる。



現在 安登小学校も建て変わり、住宅や道路が出来て様変わりしている。

野呂山の開拓団編「野呂分校」



昭和33年の野呂分校で場所は十文字。開拓団の多くは安浦町域に属していた。



昭和44年頃の野呂分校教室。昭和45年廃校となり、生徒10名は安浦町と呉市に転校した。